

今をときめく まちのあの人に 会いに行く vol. 10

向谷真奈美さん 加藤サチ子さん

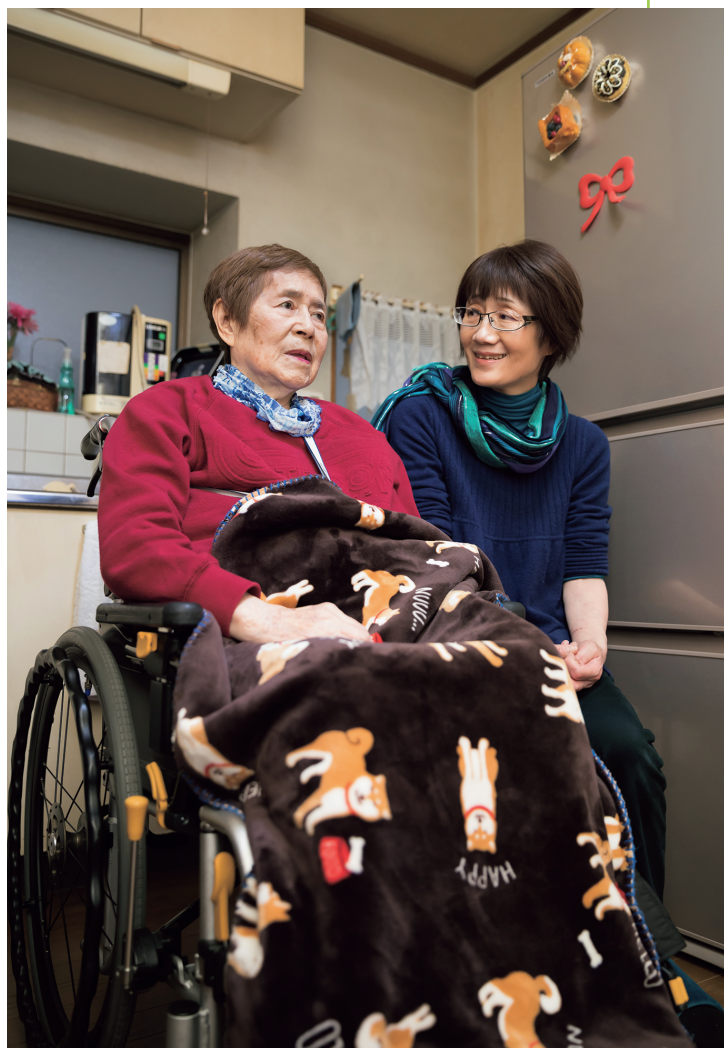
突然始まった介護の日々 驚きと戸惑いを抱えて

空

が茜色に染まり始める午後四時半、加藤 サチ子さんはデイサービスから送迎車で自宅へと戻ります。「おかえりなさい。今日も楽しかった?」と笑顔で迎えてくれるのは、加藤さんの娘で近隣に住む向谷 真奈美さん。13年前に脳の病で倒れ、車椅子生活となった母を支え、自身も介護の仕事をこなしながら日々奮闘しています。「最初に倒れているのを発見した時は、本当に気が動転してね。親が老いる前に色々心構えをしておくのは大切って聞くけど、いざっていう時にならないと自分事として考えられないんだと思いました」と、向谷さんは当時を振り返ります。コーラスサークルや大正琴、ハーモニカなどの会に入って公民館活動に精を出していた加藤さんは、もともと元気そのもの。まさか母が倒れるなんて、と向谷さんは驚きを隠せなかったといいます。「初回に出た認定は要介護5。それまでが元気だっただけに、お正月明けに届いた封筒を開けた時のショックが忘れられないんですよ」。毎日、歩くためのリハビリに励んだけど左半身に麻痺が残った加藤さんを支えるべく、そこから家族の介護の日々がスタートしました。

海田町にゆかりのある人を毎月ピックアップし、現在の活動や仕事から、海田町への思いまで深掘りしていきます。

2月号では、海田町にお住まいの向谷 真奈美さんと加藤 サチ子さんにお話を聞かせていただきました。親子の絆や各々が抱く感謝の思い、前向きに寄り添い暮らす姿に注目です。



Profile

むかいだに・まなみ／介護施設職員として20年以上勤務し、現在は海田じらく房で仕事と介護を両立するワーキングケアラーとして奮闘。趣味はライブやショッピング、カリンバ演奏。日々の楽しみを糧に前向きに介護に取り組んでいる。

かとう・さちこ／77歳の時に病に倒れ車椅子生活に。現在89歳、要介護4。倒れた当日もグラウンドゴルフやマージャンを楽しんでいたほど活動的な性格で、友人も多数。明顕寺の婦人会会長も歴任する。